

# 仙南最終処分場の延命化年数に関する見直し

## 1. はじめに

第1回施設基本計画検討委員会にて検討した、仙南最終処分場の延命化年数は、施設規模として、一般ごみ 225t/日に掘り起こしごみ 25t/日を加えたものにて試算を実施した。そして、第4回施設基本計画検討委員会では、掘り起こしごみ量を含めた、施設規模を 200t/日と整理したことから、仙南最終処分場の延命化年数について見直す。

## 2. 見直しの条件

見直しの条件は、図1に示すとおりである。

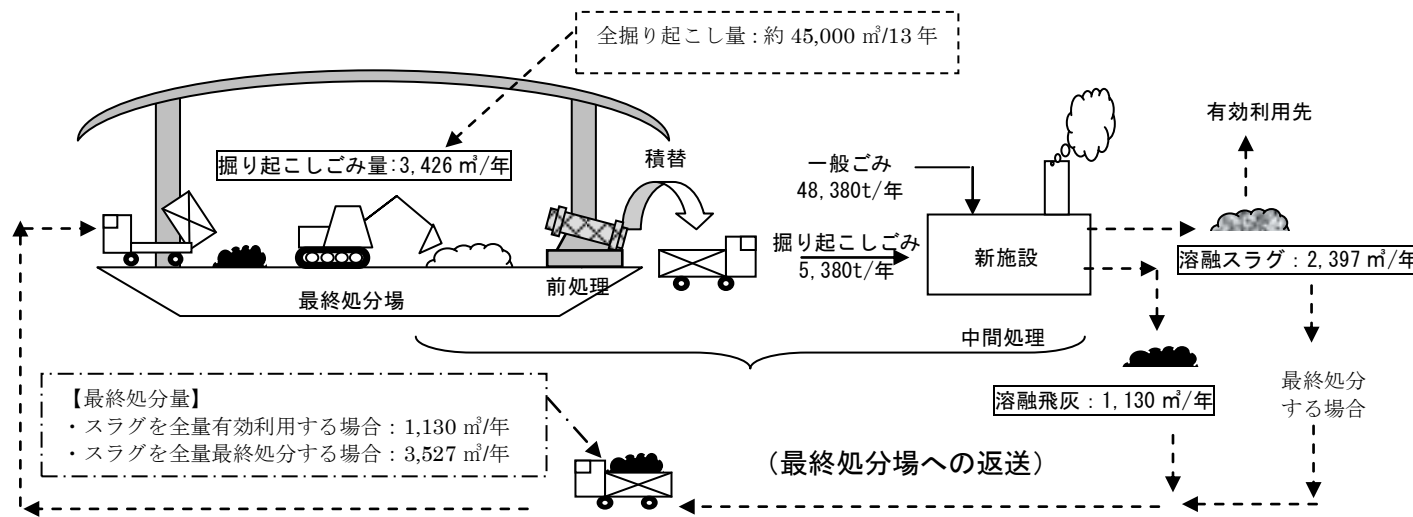


図 1 掘り起こしのスキーム図

表 1 延命化年数の試算条件

| 項目          | 従前                     | 今回                     | 備考                 |
|-------------|------------------------|------------------------|--------------------|
| ①最終処分場の埋立容量 | 194,040 m³             | 同左                     | 仙南最終処分場の計画埋立量      |
| ②掘り起こし量     | 約 45,000 m³            | 同左                     | 掘り起こし区画、作業計画を考慮し設定 |
| ③掘り起こしごみ処理量 | 6,720t/年<br>(4,280 m³) | 5,380t/年<br>(3,426 m³) | 施設規模に比例。           |
| ④掘り起こし年数    | 11年                    | 13年                    | ②÷③により算定           |
| ⑤溶融スラグ量     | 2,996 m³               | 2,397 m³               | 計画処理量の 7.3%と仮定     |
| ⑥溶融飛灰量      | 1,412 m³               | 1,130 m³               | 計画処理量の 3.0%と仮定     |

## 3. 従前の計画に基づく埋立容量の推移

従前の計画に基づく埋立容量の推移は、図2のとおりである。

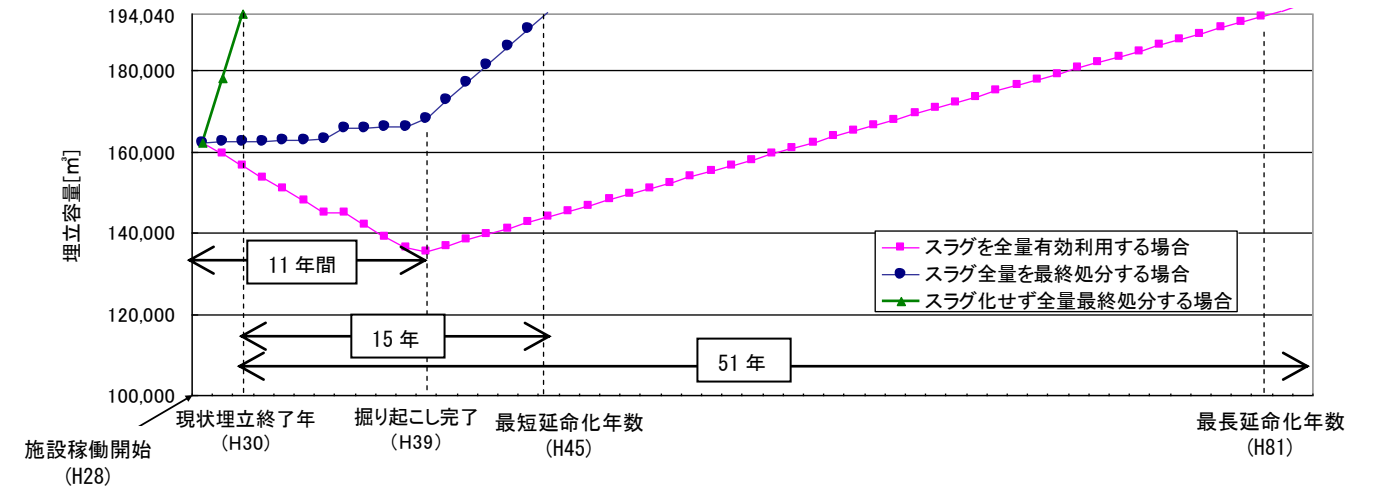


図 2 掘り起こし再生による埋立容量の推移（従前）

## 4. 見直しの結果

見直しの結果は、次のとおりである。

- 溶融スラグの全量を再利用することなく溶融飛灰を合わせて最終処分場へ埋め立てられる場合、**20年後の平成 50 年まで**延命化することが見込まれる。
- 溶融スラグの全量を再利用し、溶融飛灰のみ最終処分場へ埋め立てられる場合、**66年後の平成 96 年まで**延命化することが見込まれる。

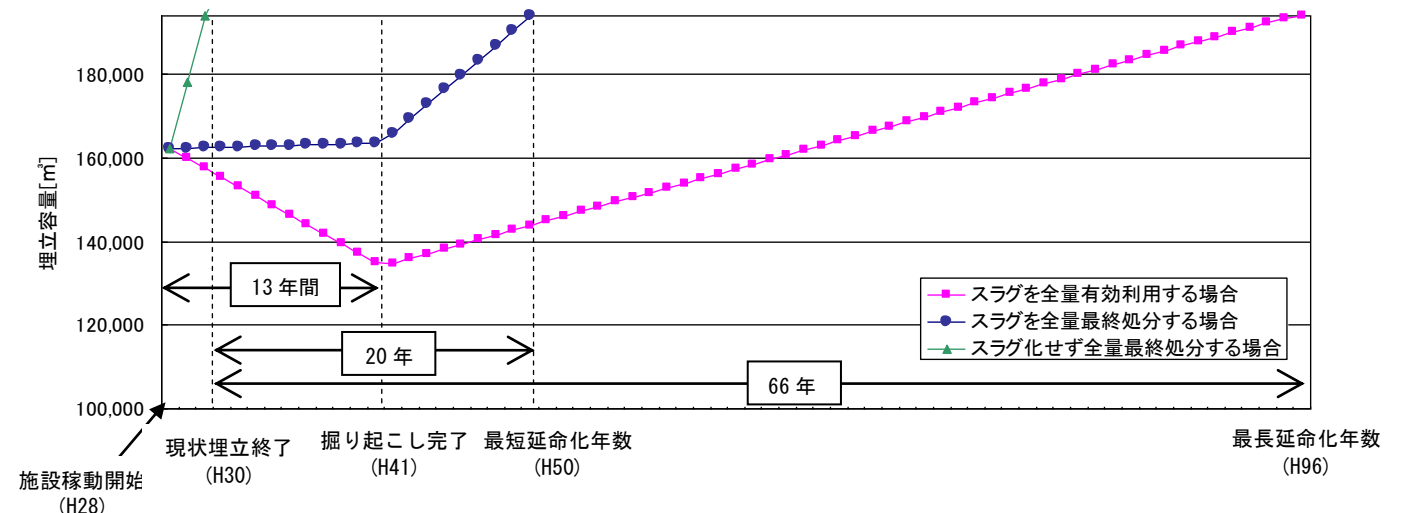


図 3 掘り起こし再生による埋立容量の推移（見直し後）

## 5. 終わりに

見直しの結果、従前と比較して掘り起こし完了年が2年、最長延命化年数が15年延伸されたことがわかる。これは、施設規模の縮小による、掘り起こしごみ処理量と最終処分量の減少による。